

## I 事業の背景と目的

### 1 事業の背景

泰阜村は長野県の南部、愛知県・静岡県との県境地域にあります。

周囲を山や川で囲まれているため、地域の中心都市である飯田市と隣接していますが、交通の便は良くありません。

県庁所在地である長野市からの所要時間は、自動車で3時間程度、首都圏からの所要時間は5時間程度と、大変遠い場所です。(公共交通機関を使うと、乗り換えが不便なために、さらに時間がかかります。)

人口が年々減少するとともに、高齢化が進んでいます。

かつては木材(建材や炭など)や養蚕が資源でしたが、時代の流れの中で資源としての価値が薄れてしまいました。また、コンニャクの有効な産地だった時期があるの

ですが、輸入品などに押され、衰退しています。

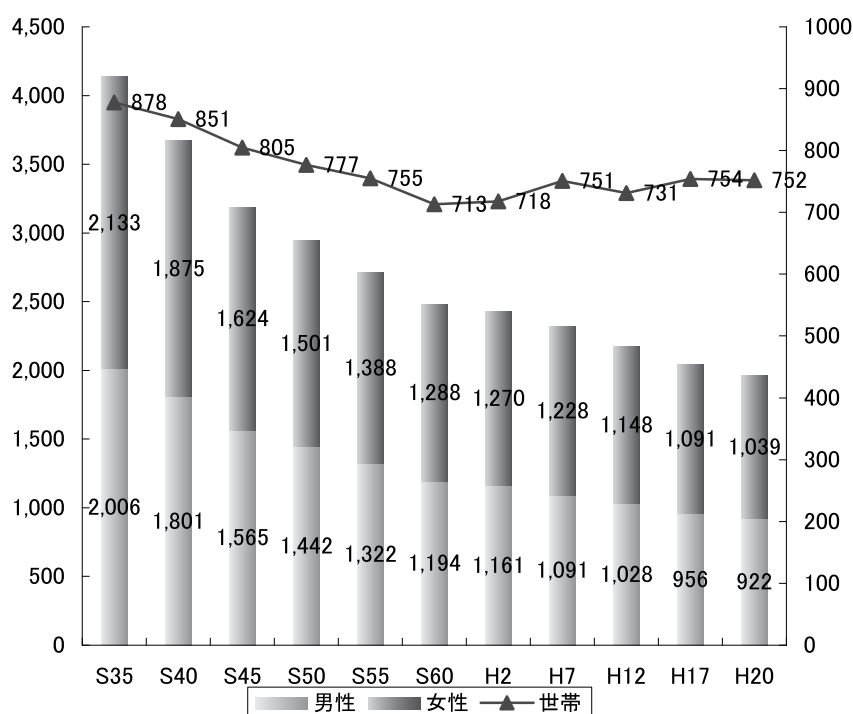
人口の高齢化は全国標準より早く進展したので、在宅福祉を中心に、独自の考えに基づく高齢者福祉体制を整えてきました。

一方、これまでも企業誘致等過疎対策に努力してきましたが、社会基盤の整備が遅れた条件的に不利な地域では、なかなか進むものではありません。

そこで、

- ・ 高齢者の知識や技術を活かして
- ・ 無価値のものをうまく活かして
- ・ 少量販売しかできないのであまり手数をかけずに
- ・ 楽しく、おもしろく、気軽に取り組み、長続きする

地域振興施策を模索してみることにしました。



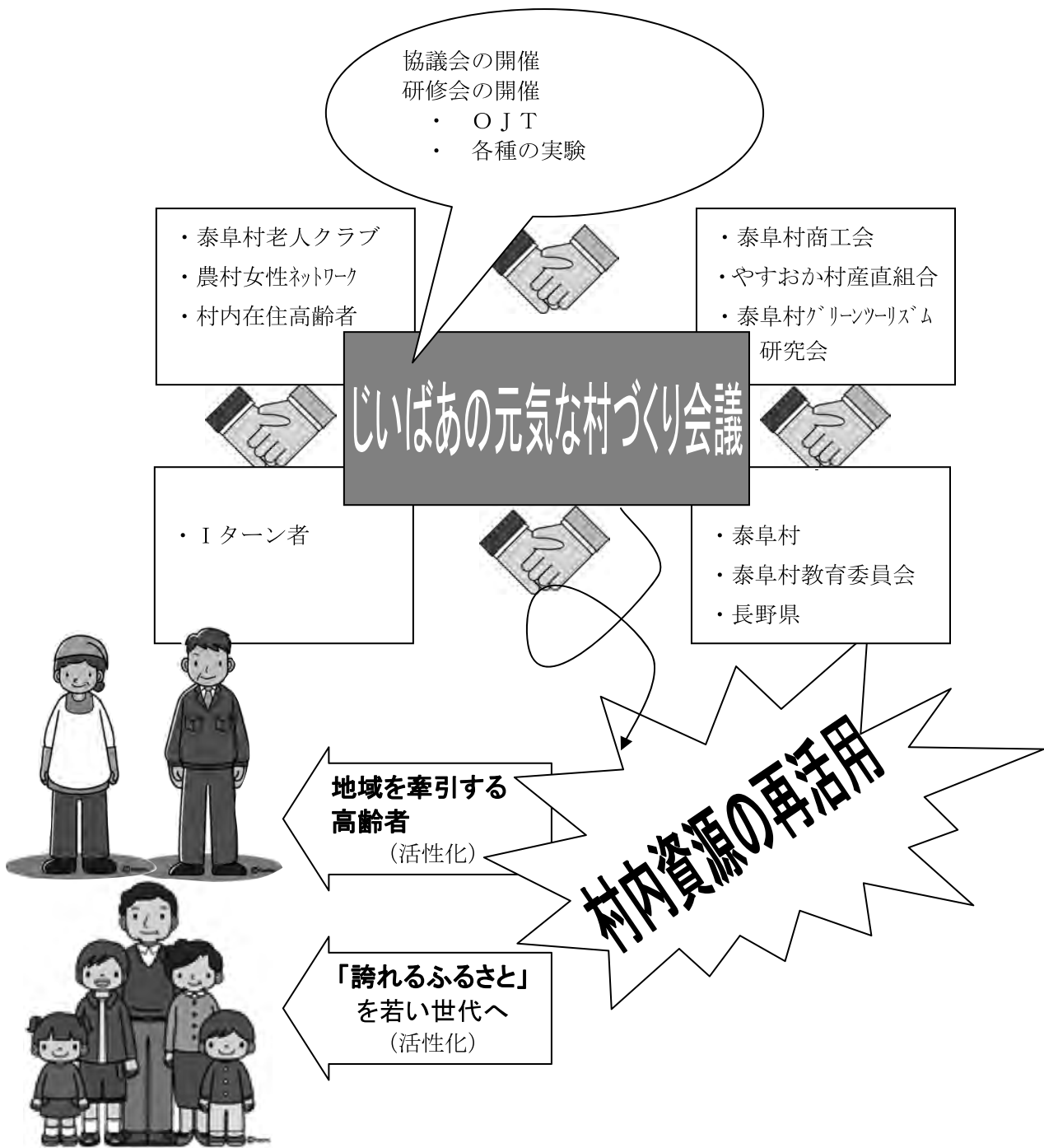
## 2 事業の目標

高齢者がさらに元気になり、生き甲斐を持って自分たちの村を自分たちで元気にする力を持つために、次のことを具体的な指標として掲げました。

- ・ 泰阜村の食材を使っでの加工品開発と販売  
（キクイモの漬物等）
  - ・ 季節メニューレシピの作成
  - ・ 山野草、苔、竹などを使ったお土産品の開発と販売
  - ・ 民話に基づいたお土産品の開発と販売（お守り）
  - ・ 元気高齢者の集会および活動拠点施設の整備
  - ・ 事業協力者（高齢者）30名以上の育成
-

## II 事業推進体制・組織

### 1 事業推進のイメージ図



地域再生を担う人づくり支援調査事業実績報告書

2 事業推進組織

当事業は、村の貴重な人材である高齢者を中心に、山村の新しい価値を創造する事業ですから、官民一体となって取り組む体制づくりが必要です。

また、小村であることから、長野県や近隣町村との連携も不可欠です。（広域連合や一部事務組合を通じて連携を進めていきます。）

そこで、母体となる協議会「じいばあの元気な村づくり会議」を組織しました。

泰阜村長を会長として、泰阜村の振興に取り組む各種団体、売れる商品を企画するために商工会や産直組合、都市住民の意見を反映するためにIターン者に参加していただきました。

そして、いつでも誰でも参画していただけることを念頭に、研修会や各種の実施活動を実施しました。

じいばあの元気な村づくり会議 名簿			
	団体名	役職	氏名
会 長	泰阜村	村 長	松島 貞治
委 員	泰阜村老人クラブ連合会	会 長	宮澤 茂興
〃	〃	女 性 部 長	土岐 節子
〃	泰阜村グリーン・ツーリズム研究会	理 事 長	畑野今朝登
〃	泰阜村農村女性ネットワーク	代 表	中島スギ子
〃	泰阜村商工会	会 長	秦 和陽児
〃	やすおか村産直組合	組 合 長	宮澤 茂興
〃	泰阜村営農支援センター	相 談 員	萩本 嘉彦
〃	江戸っ子かぐや	代 表	伊東江鶴子
〃	長野県下伊那地方事務所地域政策課	企画振興係長	竹鼻 栄二
〃	長野県下伊那南部ふるさと振興局	コーディネーター	桐生 達夫
〃	泰阜村教育委員会	社会教育指導員	吉岡 大子
〃	泰阜村元気高齢者プロジェクトチーム	住民福祉課	森下 清
〃	〃	振 興 課	宮澤 仁
〃	〃	振 興 課	平栗富士男
事務局		総 務 課	横前 明
		住 民 福 祉 課	池田真理子

3 事業実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会		○		○		○		○	
研修会					○				
資源・技術開発					←	→	→		
試験販売						←	→		
交流拠点整備					←	→			
事業報告								○	

8月に第1回協議会を開催し、実質的な調査研究に入る前段に協議会、研修会を開催することとしました。

高齢者の知識や技術を活かす商品開発や試験販売は、11月から2月の間に実施することとしました。

2月下旬に報告会を開催し、最後のまとめをすることにしました。

### Ⅲ 活動概要

#### 1 協議会

##### (1) 第1回協議会

開催日：平成20年8月1日（金）午後1:30～

場所：泰阜村役場 農林指導室

協議内容：① 事業の趣旨・推進体制について

② 事業計画について

##### (2) 第2回協議会

開催日：平成20年10月15日（水）午後1:30～

場所：泰阜村役場 農林指導室

協議内容：① 研究の詳細内容について

- ・ 試作する品・委託する講師・招集する高齢者層・試験販売方法等

##### (3) 第3回協議会

開催日：平成20年12月18日（木）午後1:30～

場所：泰阜村役場 農林指導室

協議内容：① 地域再生を担う人づくり支援事業地域リーダー研修会等の報告

##### (4) 第4回協議会

開催日：平成21年2月24日（火）午前9:00～

場所：あさぎり館

協議内容：① 今年度のまとめと国土交通省への報告書について

② 次年度の事業計画について

## 2 研修会

開催日：平成20年11月4日（火）

場所：泰阜村役場 ふれあいの森図書館

講師：愛知県豊田市足助町観光協会長 小澤庄一 先生

高齢者が持てる知識や技術を発揮して村の活性化を進めるための研究を始めるに当たり、愛知県の豊田市で、足助町観光協会長として活躍されている小澤庄一さんを講師に招き、座談会形式の研修会を開催しました。

高齢者福祉と観光と地域の活性化をうまく融合させた「Z i Z i 工房」や「バーバラハウス」などの事例や、シンビジュウムを東京の市場に直接販売して成功された人の話など、魅力的な話題を提供していただき、参加者の多くが意欲をかき立てられる研修会となりました。



### 3 OJT

#### (1) 山の資源を活用した加工品の研究

##### ① 苔球

「かわいい緑のオブジェ」  
として人気が上がってきて  
いる苔玉は、材料の多くを村  
内から調達できるので、泰阜  
村の加工民芸品として育成  
すべく、作り方の研修会を開  
催しました。



開催日

平成20年11月20日(木)

場 所

泰阜村役場 第1会議室

参加者

20名

##### ② ミニ門松

苔玉同様、門松も材料の多く  
を村内から調達できるので、  
「どこにも飾れるお正月飾  
り」として育成したいと思い、  
作り方の研修会を開催しまし  
た。



開催日

平成20年12月24日(水)

場 所

泰阜村役場 第1会議室

参加者

15名



(2) 農村の食材を活用した加工品等の研究

① キクイモの加工品

「キクイモの加工品はないか」という問い合わせを受ける機会が増えているので、キクイモ加工品の製造に取り組んでみることにしました。

本命である漬け物、併せていくつかのキクイモ料理の研究をしました。



開催日

平成20年12月26日（金）

場 所

あさぎり館

参加者

15名

② 旬の野菜をつかった食文化の研究

都会の若いお母さんなどへ野菜を直接販売する機会が増えているなか、保存技術がなかったころの料理を見直して、泰阜村の野菜のおいしい食べ方の情報提供ができるように、農村の食文化の研究を行いました。

実施時期

平成21年1月～2月

(3) 地域の伝統文化に根付いた工芸品等の研究

民話は他の地域でも聞くような内容のものであっても、このものが偽物ということはありません。

地形のハンディがあるので、民話に基づく観光地化というのは困難と思いますが、民話に山村の資源を加えてお土産品的なものを考案できないか、研究しました。



実施時期

平成20年10月～平成21年2月

4 高齢者の活動拠点整備

閉鎖されていた村有施設を、高齢者の活動拠点施設として改修しました。



#### IV 本事業を通じて得られた成果

##### 1 事業参加者の声

事業のまとめとして、川柳を詠んでいただきました。  
前向きな意見がたくさん披露されました。

##### 2 目標の達成度

今年度に具体的な目標として掲げた数値は、概ねクリアできました。

#### V 今後の課題

今年度の研究は、泰阜村にあるもののなかから高齢者の智恵や技術によって価値をつけて売れそうなものを探すというもので、当初検討していたものは、だいたいの判断がつかしました。

苔玉については、「春からもう少し本格的に売ってみたい」という声があるので、そうした意欲を大事に育成していきたいと思います。

関連してワラビの水煮や地場のレストランなど、「これもどうだ」という意見が多数寄せられました。

その全てが成功するとは限りませんが、停滞ムードが払われれば、まず第一歩として価値あることです。

多様な連携をとりながら、引き続き地域振興に取り組みます。

# お年寄りに生きがいを

## 泰阜の住民や村職員 取り組み

泰阜村や村の住民で昨年設けた「じいばあの元気な村づくり会議」が、高齢者から伝統的な郷土料理について聞き取ってレシピを残したり、村内産の竹を使ってお年寄りが手掛ける加工品開発などを進めている。お年寄りに元気に活躍してもらい、村全体も活気づけよつという取り組みだ。

同会議の設立は、村の福祉担当者が提案。村内のお年寄りの笑顔が少なくなつたのではと感じていたといい、「施設や制度の福祉サービス  
を提供するだけでなく、生きがいを  
持つよう手伝いをする必要がある」と考えた。設立後は、国の「地域再生を担う人づくり支援調査」事



泰阜村の高齢者らが作ったミニ門松や「苔玉」。元気づくりにと高齢者参加を積極的に促している

## ■ 郷土料理 聞き取り ■ 手作り製品を販売

業の補助を受けて活動している。

昨年十一月には、会議の呼び掛けでお年寄りに村施設に集まってもらい、村内に多いモウソウチクを器に使った「苔玉」作りの学習会を開催。十二月にはミニ門松作りの会も開き、出来上がった両製品を飯田市内の農産物直売所で販売してもらった。

村が特産化を目指しているクワイモの料理講習会なども開催。今後はクワイモの漬物や、トウモロコシの皮で指先ほどの大きさのミニぞうりを編んだお守り作りを進める。

これまでに百人以上のお年寄りが活動に参加。ミニ門松作りなどをした土岐節子さん(76)は「集まった人たちも皆楽しんでたよう。これからはもっとどんかかわりたい」。松島貞治村長は「山村が生き残っていくには地域の力が必要。高齢化が進む中でお年寄りが元気になることが地域の力を上げる」と話している。